



SUBARU流 全社データ活用で笑顔を作る 「モノづくり革新」と「価値づくり」

株式会社SUBARU データ統括活用推進部
2024/09/13

会社概要

会社名 株式会社SUBARU（英名：SUBARU CORPORATION） *1

設立 1953年7月15日（創業：1917年5月）

資本金 1,538億円 *2

従業員数 17,228名（連結会社合計：37,571名） *3

売上高 4兆7,029億円 *2

営業利益 3,851億円 *2



*1 2017年に社名変更（旧社名：富士重工株式会社）

*2 2024年3月期

*3 2023年3月末時点

自動車事業
Automotive Business



航空宇宙カンパニー
Aerospace Company



自己紹介

氏名 市川 健太郎

部署 データ統括活用推進部 主査

経歴

2008年 家電メーカー 入社

✓ 社内SE

2012年 外資系コンサルファーム 入社

✓ ITコンサル（通信/メディア/ハイテク）

2018年 スバルITクリエイションズ株式会社 入社

✓ 社内データサイエンティスト

2019年 株式会社SUBARU 出向

✓ G-PLMプロジェクトに従事

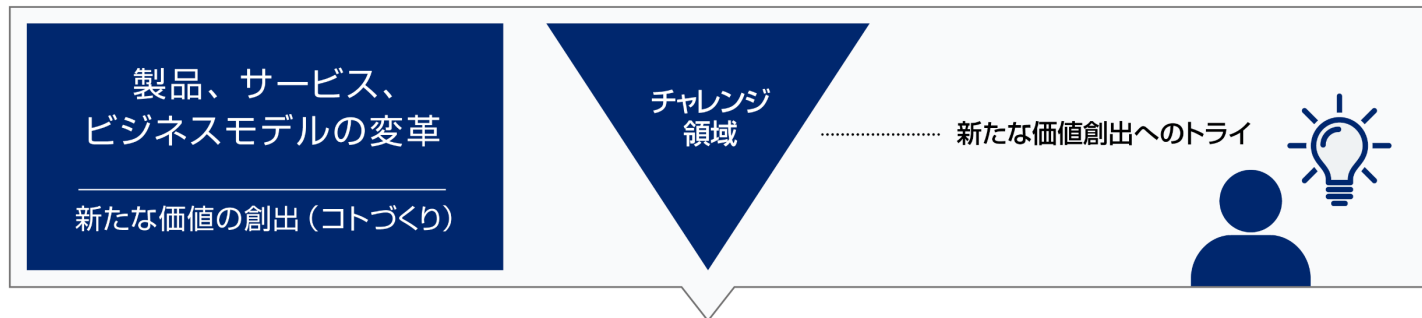
2024年 株式会社SUBARU 入社

✓ G-PLMプロジェクトに従事

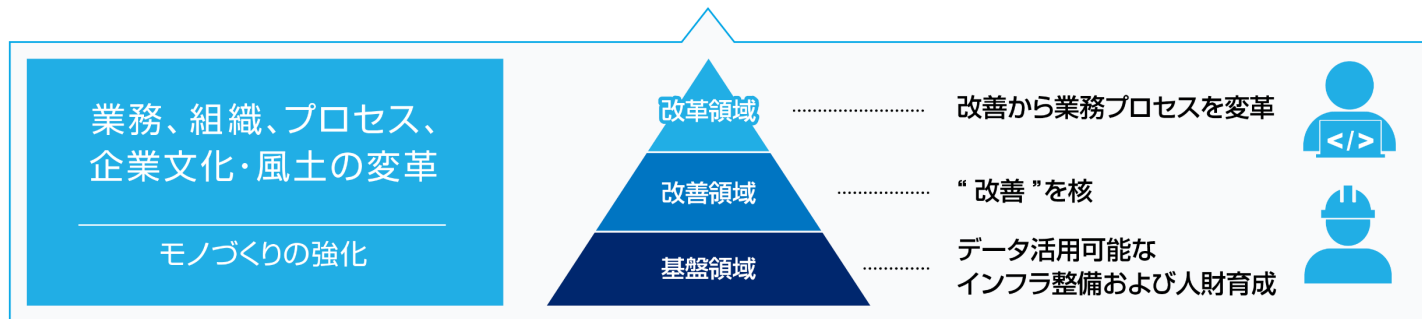


SUBARU × Digital : コンセプト

共通のゴールをセットして2つの取り組みを“並行”して実行

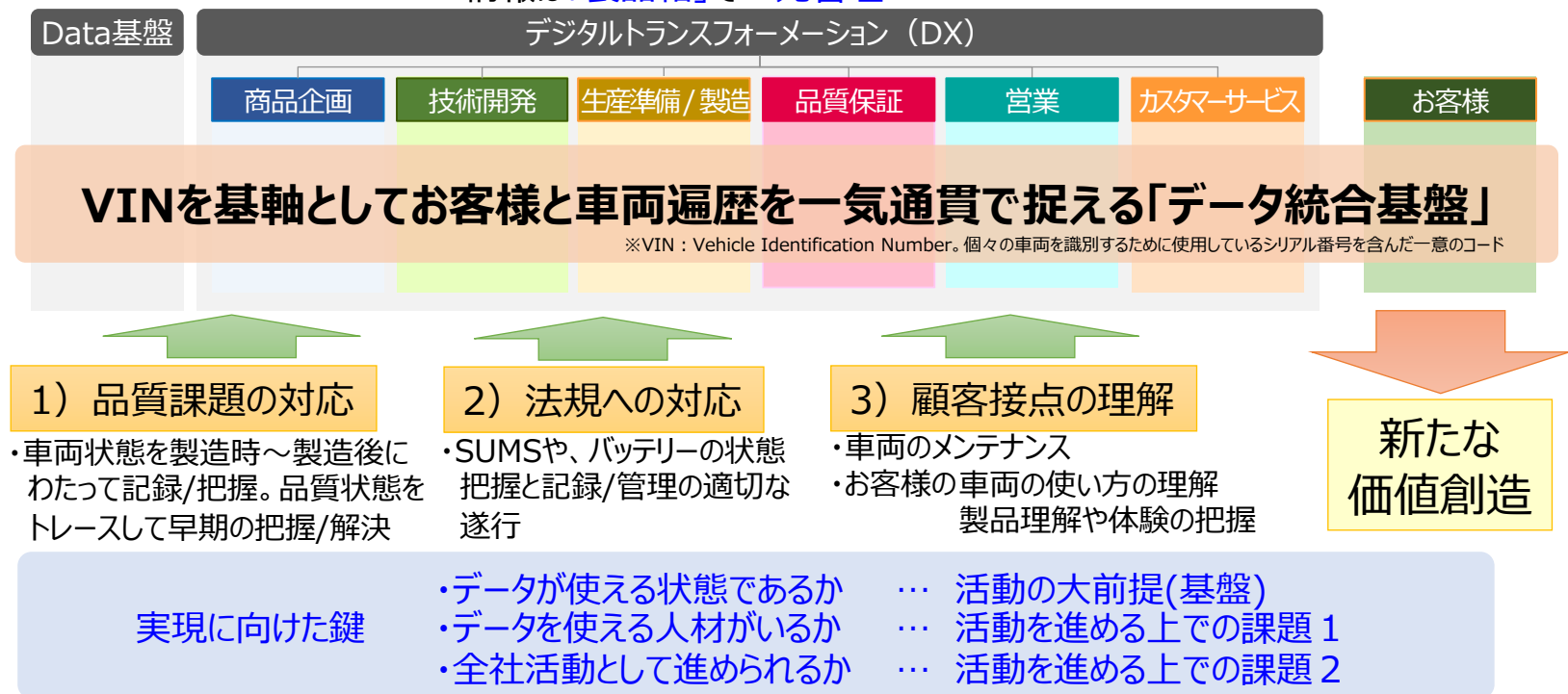


“データ・デジタル技術を活用して”
SUBARUブランドとお客様との結び付きを強くする



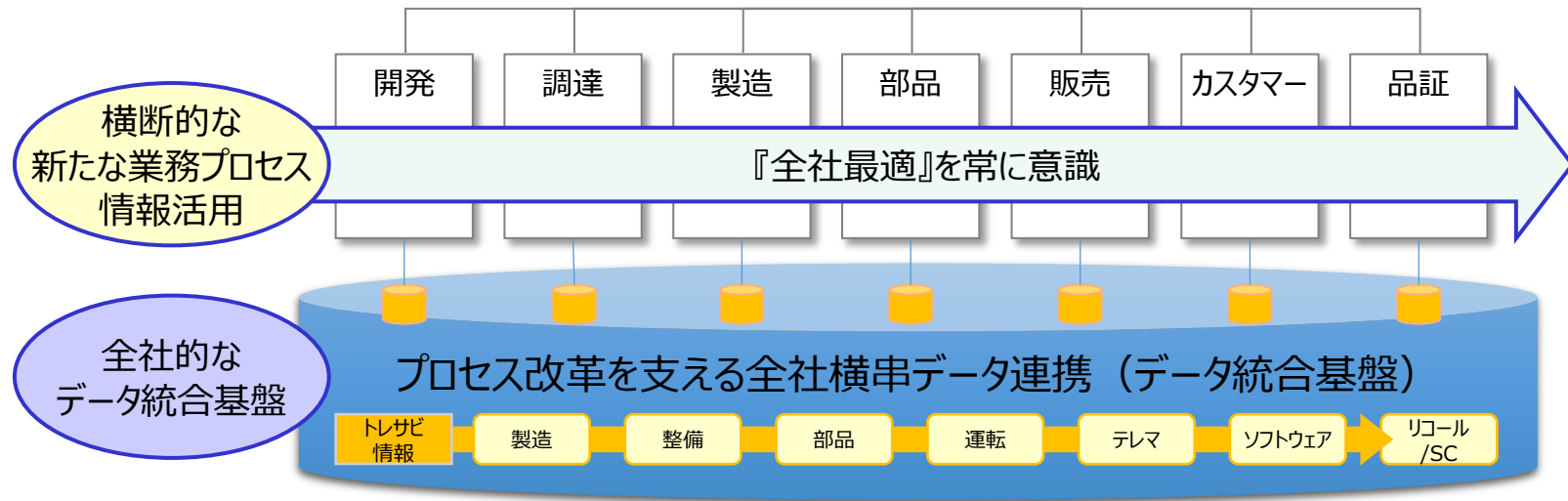
構想：「価値あるデータの利活用」に向けてやりたいこと

企画・設計～製造～販売～お客様 = 車両生涯ライフサイクル通じたデータの利活用
～情報は「製品軸」で一元管理～



解決の糸口：システムではなく「データを繋ぐ」という考え方

繋ぐべきは「システム」ではなく「データ」、部門横断的にデータを繋ぐ「データ統合基盤」が必要



「製品軸」で車両生涯のデータを一元管理化（Product Lifecycle Management）

✓部門横断的に整備する『グローバルPLM活動』を始動した

SUBARU × Digital : データ戦略

<新たな価値の創出>

データ統合基盤、その目標はデータがつながることで「新たな価値を創出」することである。

業務実績データやその統計値などの客観的な証拠に基づき経営/業務の最適解を導く為には、データその物に高い優位性/信頼性(≒価値)が無ければならない。つまり、データ×データ ⇒ 『相乗的なデータ価値向上』を実現する必要がある。

<データ基盤 利用環境整備>

① 企業活動の基礎となる「データの蓄積」

グループ内外を含めた事業活動の客観的データのグローバルな情報基盤

② 連携基盤（ETLツール）

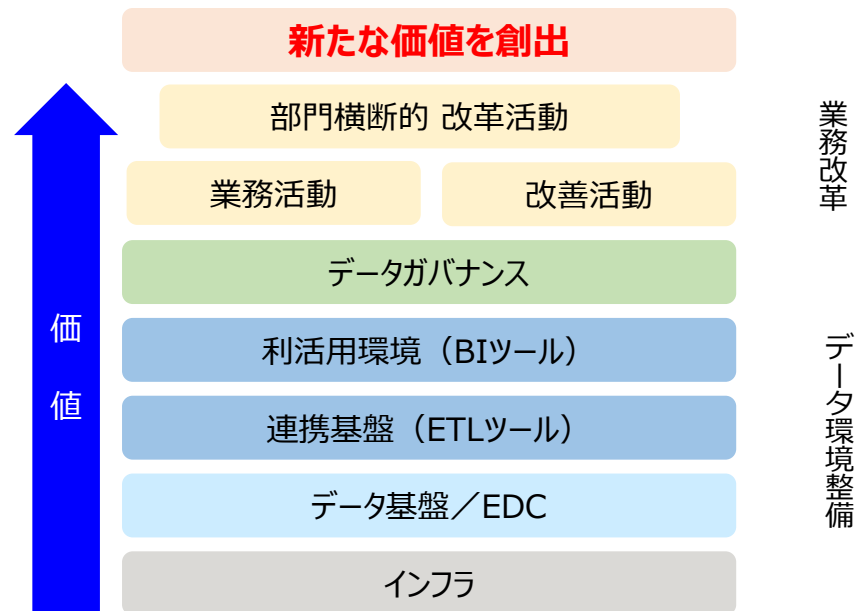
膨大な量のデータを連携する、標準的かつ多様な入出力API やデータカタログ(EDC)などのデータ連携活用ツールの整備

③ データ利活用環境（BIツール）

蓄積したデータを企業活動に最大限活用する為のデータ利用環境、特に統一的な、多様・多次元にデータ分析可能なBI環境の整備

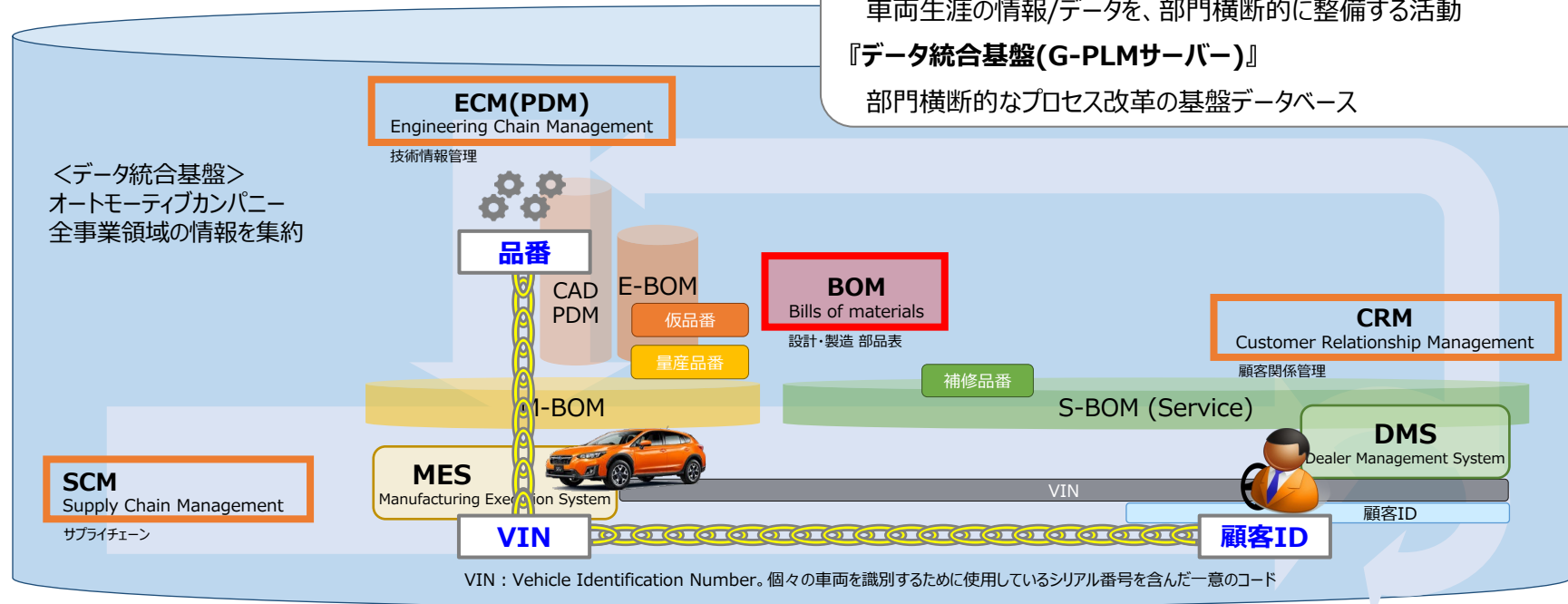
④ データガバナンス

データ全体をコントロールする標準や品質などのルールの整備
デジタル市場における競争ルールや知的財産保護、
安心してデータを流通・利活用するためのトラストの枠組みなど



プロセス改革活動「グローバルPLM活動」

スコープと骨格



『グローバルPLM活動』

車両生涯の情報/データを、部門横断的に整備する活動

『データ統合基盤(G-PLMサーバー)』

部門横断的なプロセス改革の基盤データベース

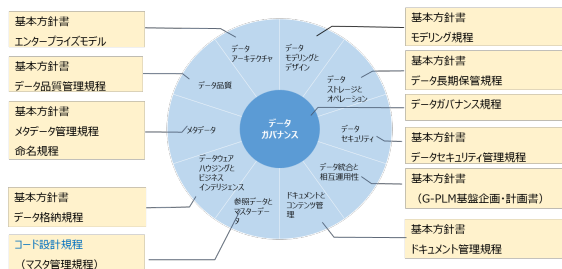
＜データ統合基盤＞
オートモーティブカンパニー
全事業領域の情報を集約

データ統合基盤を『部門横断的なプロセス改革の基盤』とする

データマネージメント活動

データガバナンス

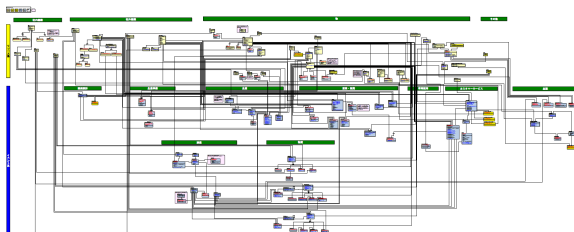
- ✓ データ標準やデータ品質、セキュリティなどの情報/データの信頼性管理
- ✓ データマネジメント知識体系DMBOK IIをベースに基本方針及び下位規程を整備・ルール化



- ✓ 社内でデータマネジメント・データガバナンス専門知識・経験を持っていない
 - 最優先でデータガバナンスを着手
 - データリテラシーが低い社内への布教活動

データモデル / メタデータ管理

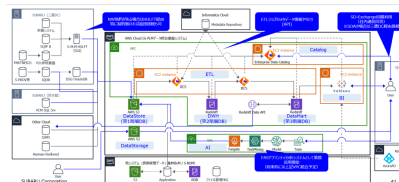
- ✓ Garbage in, Garbage outを防止
- ✓ システム非依存でデータの適切な再配置をすることで、再利用可能な状態を保つ
- ✓ データ標準に基づくメタデータ管理の実現
- ✓ 全社エンタープライズERDの概念化・論理化



- ✓ 社内でデータモデリングの専門知識を持っていない
 - 全社エンタープライズモデリングの有効性と手段の教育・啓蒙活動

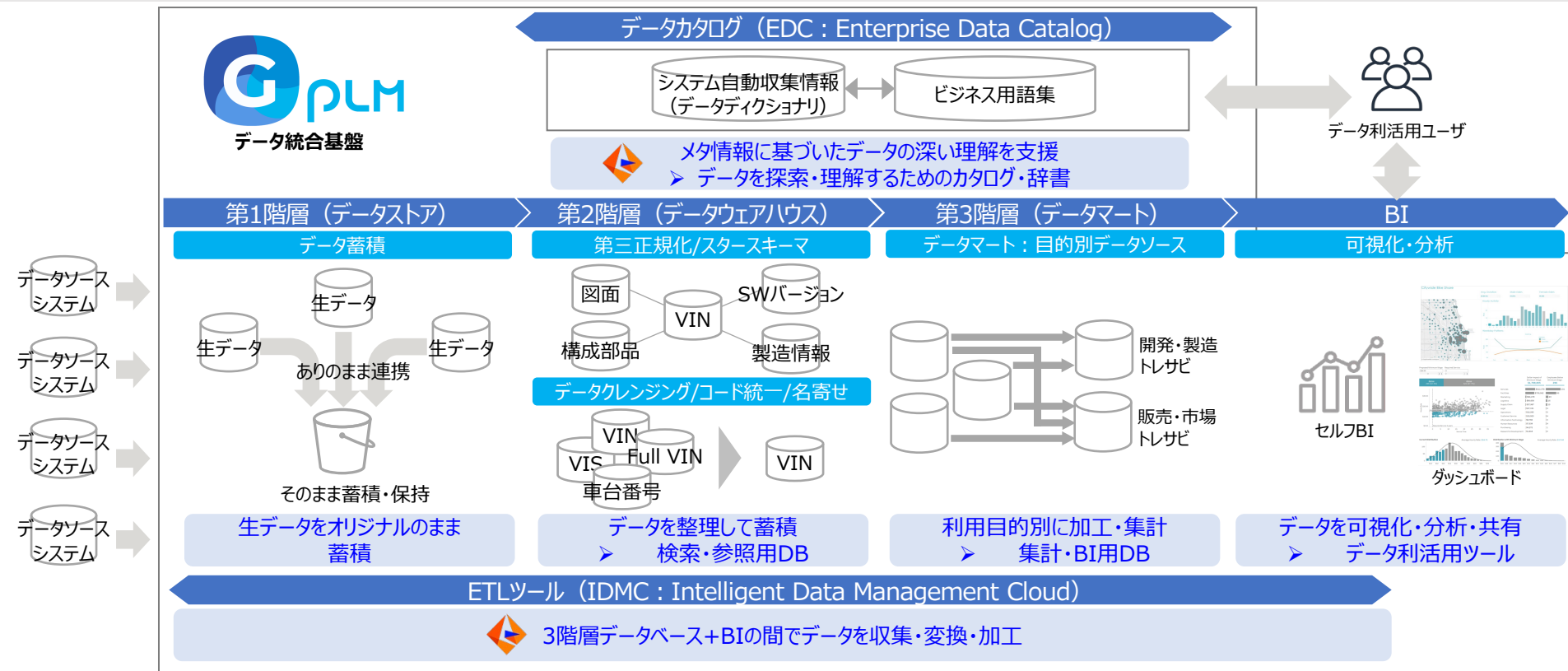
データ統合基盤の整備

- ✓ AWSクラウドによるScrap & Build初挑戦
- ✓ データ統合を実現する機能要件を備えたETLツールの導入
- ✓ ユーザーがデータを探索するためのデータカタログの導入と運用検討
- ✓ Ad hoc分析要件を満足するBIツールの導入と運用検討、セルフBI教育

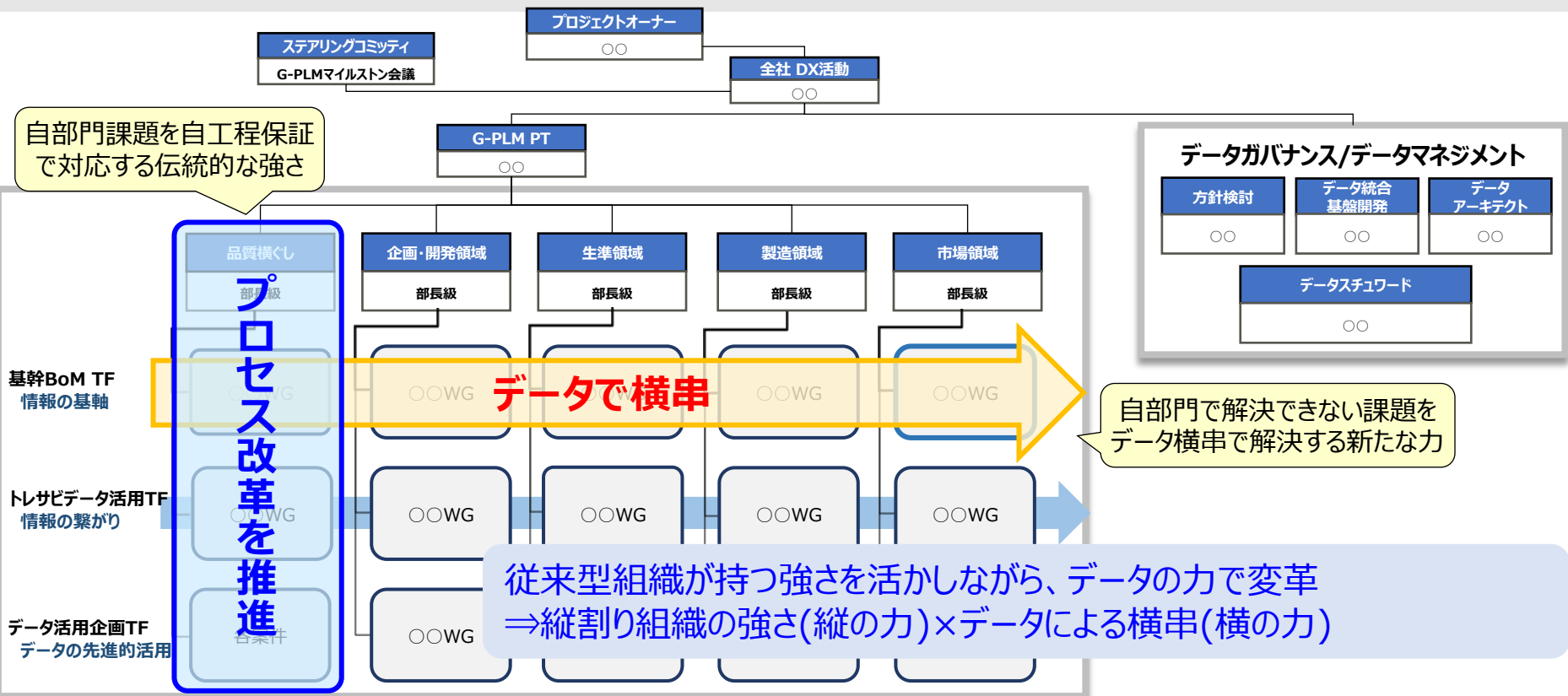


- ✓ 社内でAWSクラウド・データ統合開発の知識・経験を有していない
 - 企画推進部門を中心とした組織化・スキル習得

データ統合基盤 アーキテクチャ



プロセス改革とデータ連携のマトリクス体制



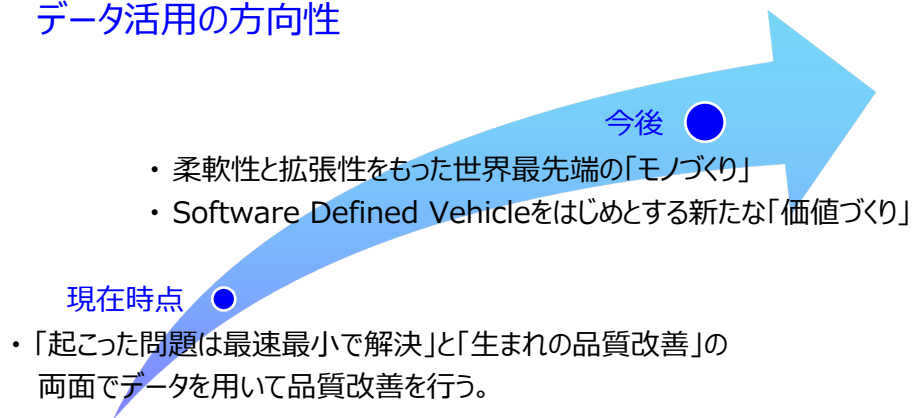
SUBARU × Digital : 最後に

- ✓ 自動車業界環境変化・・・カーボンニュートラルに向けた取り組みへの加速
- ✓ SUBARUの立ち位置・・・電動車開発の拡大・加速に伴う国内生産体制の戦略的再編を発表

「価値あるデータの利活用」実現に向けた鍵

データが使える状態であるか	データ統合基盤 データアーキテクチャを策定してデータが使える状態を維持し続ける。
データを使える人材がいるか	教育・啓蒙 データガバナンス・マネジメントの有効性と活用・手段の教育・啓蒙活動。
全社活動として進められるか	全社活動・体制構築 従来型組織が持つ強さを活かしながら、データの力で変革。

データ活用の方向性



「SUBARUらしい」取り組みを加速

- ・ 【地に足の着いた】モノづくり強化
- ・ 社員を笑顔にし、モノづくり革新と価値づくりを通じて、お客様に笑顔をお届け

Thank you!

